

# 日本地球電気磁気学会会報(第21号)

1965年10月 日

## 日本地球電気磁気学会

事務所：東京都文京区弥生2丁目11

東京大学理学部地球物理学教室内

電話(812)2111 内線 6476

振替 東京 4860

### 第38回講演会および総会についての御報せ

本年11月3日より開催されます第38回講演会においては、従来からも問題になっておりました様に、講演申込数が極めて多いために、会期を4日間と致しましても必ずしも御要求通りの講演時間を差し上げられるとは限りません。会員各位はこの点御諒承の上講演時間が申込の8割程度でも済む様にあらかじめ御用意を御願い申し上げます。

### 会誌別刷代値上げについての御報せ

既に会報20号でもお報せしました通り、会誌増頁及び印刷費値上がり等のために、担当委員の会誌売込みの努力にもかかわらず、別刷代値上げの止むなきに至りました。値上は、従来1頁1部り国内4円国外2円から、国内8円国外4円の倍増であります。但し担当委員と致しましては誠に心苦しい次第でありますのでこの際せめてものサービスと致しまして、従来の表紙代と云うのを取り止め、表紙代は無料と云うことと致しました。尚値上げは17巻1号より実施致しまして、既に御手許に新価格の請求書がとどいて居る方も居られると思いますが宜しく御諒承下さい。

### 会誌配布について

17巻2号を会報とともに御手許に御届け致します。17巻3号も既に印刷中であり、年内には発送出来るかと思えます。17巻3号はピッツバーグシムポジウムの特集号で総頁と云う膨大なものであります。この特集号は会員

各位には会誌として特別の費用を頂くことなく配布されますが、もし余分に欲しい場合は一部 2000円で御頒ち致します。この価格は国外向け一部10ドルに比べますとかなりの割引きになっております。

## 新入会員紹介

会報 20号以来現在までに下記の方が新たに本学会に入会されました。

氏名(敬称略) 所属(又は連絡先)

N. Petersen, Universität München

両角 昌清

東大理: 地球物理

松井 松長

京都工芸繊維大. 工学学部電気工学

堤 捨男

京都工芸繊維大. 工学学部

また所属変更のありました方々は

坪川 家恒 会員

東京大学地震研究所(旧国土地理院)

平尾 邦雄 会員

東京大学宇宙航空研究所(旧電波研)

吉田 セキ子 会員

埼玉県所沢市三ヶ島二海道 2433

です。

## IAGA ニュース

今年9月コペンハーゲンで開かれたIAGA執行委員会議事録(永田評議員が出席)から本学会に關係のある議事を抜萃してみました。以下

### 人事移動に関して

なくなった Barbier 氏の後任、第7委員会の Chairman, IQSY 特別委大気光 Reporter, CIG 大気光 Reporter に F. Roach 氏が選ばれました。又本学会古畑会員が第7委 Photometry の WG の Reporter になり、G. Weil 氏と J. Dafay 氏が同 WG のメンバーに入りました。又次の方々が第6委(Microstructure of Magneto Telluric Disturbances) のメンバーになりました。

柳原一夫, B. Caner, J. A. Jacobs, 大林辰蔵, J. Bouska, K. Weehes, V. R. S. Hutton, H. C. Webster, W. H. Campbell, Selser,

空中電気測定の標準化に関して、執行委員会は「MKSA System を使用する様勧告する。( "Physics Today" June 1962, P19-30

参照のこと)。又同時に空中電気研究者が報告の際静穏日の空中電位頻度及び空地電流密度にその符号を明記する様勧告する。」とのことであります。関係会員の御参考までにお伝えします。

### 出版に関して

1850.~2050年をカバーする Lunar Table が G. Fanselau 氏により IAGA-IAMAP 連合委の勧告に基づいて出版することが認められました。

Berkeley Transaction は今年中に出版されます。又 Helsinki Transaction は来年早々に出版されるでしょう。前者は全1000部後者は全750部です。

Pittsburgh Symposium (Magnetism of the Earth's Interior) の Proceeding は IAGA Symposium No. 3 として本年10月末までに出版されます。これは本学会誌第17巻3-4合併号として特集されます。IAGA としては600部を頒布致します。頒布価格は10ドルです。

Aeronomy Symposium (Density and Composition of the Upper Atmosphere, Cambridge) の Proceeding は IAGA Symposium no. 4 として出版されます。

### IAGA 関係 Symposium について

1967年度以降開かれる IAGA 関係の Symposium は次の通りです。

1967 "Aurora and Geomagnetic Storms Oslo

1967 "Recent Development in Geoelectric and Geomagnetic Instrumentation" Basel

1967 "Conjugate Point Experiments"

1968 "A Description of the Earth's Magnetic Field"

1969 "Secular Change"

1969 "Chemical Aeronomy"

1970 "Geocorona and Magnetosphere"

1970 "Solar-Terrestrial Relationships in Selected Special Events"

又第7委は "Laboratory Measurements of Airglow."

Symposium を IUGG 第14総会の際に計画しております。

COSPAR で大気光層高の世界分布研究のプログラムを積極的に推進する様 IAGA から勧告する相です。

又 Roederer より来年 8 月 Belgrade で開かれる *Inter-Union Symposium on Solar-Terrestrial Physics* に *Speaker* を引受ける旨次の方々から連絡があった旨報告されました。

- a. *Solar Particle Streams and Associated Magnetic Fields* ;  
E.N. Parker and R. Lust
- b. *The Interaction of Solar Plasma with the Geomagnetic Field* ;  
I. Quiet Conditions ; J.W. Dungey and N.J. Ness  
II. Disturbed Conditions ; V.A. Troitskaya and T. Obayashi
- c. *Energetic Particles in the Magnetosphere* ; B.J. O'Brien and V.A. Krassovsky
- d. *The Temperature of Neutral and Charged Particles in the Ionosphere and the Magnetosphere* ;  
K.I. Gringauz and J.V. Evans

#### IUGG 第14回総会について

IUGG 第14回総会はスイスの次の場所に分散して行われます。会期は 9 月 25 日 ~ 10 月 7 日, 1967 です。

IAG, IASPEI, IAV and UMC .....	Zurich
IAGA .....	Basel
IAP0 and IASH .....	Berne
IAMAP .....	Lucerne

#### その他

前回の IASY assembly (Madrid) に際し、幾つかの閉鎖点が IAGA に寄托されました。以下はそれに対する IAGA の活動です。

1. *Conjugate Point Experiments* の Symposium を計画した。
2. 故 Barbier 氏の提唱による次の太陽活動極大期一年間の大気光の協同観測計画は新任の Roach 氏にひきつがれた。
3. 1964~65 観測期間の重要日指定は第4委 Chairman の Price 氏の下で行う。この件については既に Troitskaya 氏は関連分野においてリストの作製を始めている。
4. 脈動を使って太陽風指数を決めることについて、第4委 Price 氏の所で検討する。この件は第4委、第5委のメンバーに誇り第14回総会において報告する。

#### Q-indexed WG について

IAGA WG として臨時に Q-indices の WG を設け Planetary Q-indices について検討することになりこの Chairman に福島会員が推薦されました。  
以上